

第2回島原市市勢振興計画審議会 審議概要

平成30年11月19日(月) 9:30~12:00

森岳公民館 大ホール

委員24名中22名出席

次 第

1. 市民アンケートの集計結果報告について
2. 現計画後期基本計画の施策評価について
3. 職員ワークショップ及びまちづくり座談会について
4. 全般的な意見交換

概 要

○市民アンケートの集計結果報告について

事務局から資料に沿って説明が行われた。

(委員からの意見(抜粋))

- ・若い世代が、暮らしにくいと思っている点は論点になると思う。
- ・若者がなかなか帰ってこないとか、まちづくりへの参画などもテーマになってくるかなと思う。
- ・新しいキャッチフレーズは、市民のやる気が出るようなものがいかなと思った。
- ・働く機会の確保としての企業誘致は、どこの自治体でも挙がるが、なんでもいいから誘致しようという時代は終わっていると思う。島原の産業とうまく取引ができるような企業を誘致するとか、若い人たちには起業にチャレンジできるような機会も大切だと思う。

○現計画後期基本計画の施策評価について

事務局から資料に沿って説明が行われた。

(委員からの意見(抜粋))

- ・町内会自治会の加入促進について、アンケートの中で災害に対する不安や地域のつながりの数値が高かったが、その点も加入促進に役立てることができるのではないかと。
- ・日ごろ嫌だと思っていた地域のしがらみが被災地復興に役に立ったとの話を聞いた。地域のつながりは大事。
- ・町内会自治会の加入率について、アパートとかに住む若者の加入率が低いと思うが、しがらみを感じているのであれば、違ったコミュニティの作り方を考えてみてもいい。
- ・数値の設定については、今までの積み重ねなのか理想とする目標なのか考え方が必要かなと思う。
- ・キャリア教育として、画一的な人材育成もいいが、社会人としてどうあるべきかということ伝えることも必要。

- ・定住自立圏について、今後 10 年を考えると、近隣の自治体と連携していくことも必要と思う。

○職員ワークショップ及びまちづくり座談会について

事務局から資料に沿って説明が行われた。

(委員からの意見(抜粋))

- ・商店街から鯉の泳ぐまち周辺の哺乳室が少ない。
- ・湧水を魅力としながらも、市内には子供の水遊び空間が無いと思う。海水浴も水遊びも屋内施設も市外で遊ぶという流れになってしまうと、子供の遊び場がない中で育つことでは島原から離れていってしまう。
- ・子供が自然の中で小さな動植物と交わる場がない。公園や学校内でそのような場の設置ができないかなと思う。

○全般的な意見交換

- ・子供の遊び場が市内に少ないと思う。
- ・島原の人ほど島原の魅力に気づいていないのではないかなと思う。移住者や都会に住んでいる人たちの意見も聞き、島原市内の意見だけではなく、市外の意見や情報を取り入れることで若者が元気なまちになると思う。
- ・若者の人口が減少している中で、高齢者もまだまだ働ける状況があり、時代の流れについていけるように、大人の学校や大人の再教育といった考え方もあるのではないかなと思う。大人が勉強する姿勢は子供の教育にもいいと思う。
- ・宮崎県の小林市で、熱中小学校として 60 代以上くらいの方が 7 才の子供の目線になっていろんなものを見てみようとか、最先端のものに触れて自由にディスカッションするとか、高齢者がそこで得た知識で起業するとかという話がある。

以 上